

特集

歯の矯正治療は早めがいいの？

歯の矯正治療を始める時期

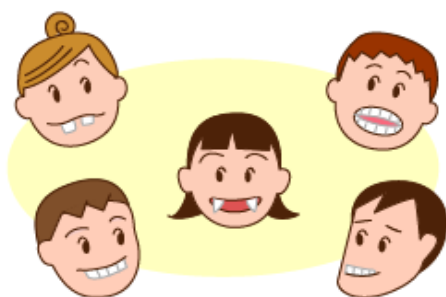
よくお受けするご質問に、「歯の矯正治療はいつ頃から始めればいいのでしょうか？」があります。そのお答えは、「歯の生え変わりの状態や症状により最適な時期は異なります」ということになります。もしお子様が小学生であれば、一度同級生のお口の中を見せてもらってください。同じ年齢でも歯の生え変わりに

随分差があるのがお分かりいただけると思います。

症状についても様々なものがあります。歯並びに関するものとして「歯のでこぼこ（乱くい歯）」や「八重歯」は代表的です。また咬み合わせが悪い例として「受け口（反対咬合）」、「出っ歯」、「上下の前歯が合わさらない（開咬）」といったものがあります。

このように多くの症状があり、その程度も異なりますから「何歳から始めたほうがいい」と一概に言えません。患者さんにより適切な時期がありますので、一度矯正歯科の専門開業医にご相談されることをお勧めします。

以下は「早期治療」といって比較的早い時期から矯正治療を始めたほうが良い症状や、治療法についてご説明します。



早期治療とは？

「早期治療」は、すべて乳歯の時期の4歳くらいから、乳歯と永久歯が混じり合う時期の9歳くらいまでの間に、歯列や顎（あご）の成長を見ながら、咬み合わせや顎の大きさ、形などの改善を行うものです。永久歯が生えそろう前の時期は顎が一番成長する時期で、その成長を利用しながら行う治療です。歯列や顎の成長をある程度コントロールすることが可能となります。また早期治療だけで十分な治療効果が得られこともあります。

また逆にこの時期に歯並びや咬み合わせが悪くそれを放置すると、さらに症状が悪化する場合が多く見受けられます。



早期治療だけでは解決できない場合も？

しかし治療の効果には個人差があり、早期治療だけでは十分な結果が得られないこともあります。その場合は仕上げの「本格治療」が必要となります。この治療は、顎の骨の成長の度合いがある程度予測できた頃、具体的には乳歯が抜けて永久歯がほぼ生えそろう時期に始めます。これは、「マルチブラケット法」とい

って、歯の1本1本にブラケット（部品）を貼り付け、ワイヤーを通して永久歯全体の歯並びや咬み合わせを治療していきます。また早期治療を行ったことで、この「本格治療」があまり複雑にならず、治療期間も短くて済むことがあります。

早期治療の中でも、特に早めの治療が必要な症状とは？

顎の成長に問題を起こす（顔立ちに影響する）症状は早めの治療が必要となります。以下が代表的な例となります。

開咬 (かいこう)



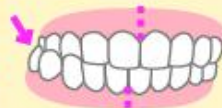
奥歯は咬んでいるが、前歯が合わさらない状態

反対咬合



上下の前歯が逆に咬んでいて、受け口の状態

交叉咬合



奥歯が横にずれていて、顔が曲がっている状態

外傷性咬合



下の前歯が押し出され、1～2本の歯がぐらぐらする状態

反対咬合の治療例



治療前：6歳6か月



治療後：9歳2か月

小学校の高学年までには、正常な咬み合わせへ

### 早期治療に使う矯正器具は大変ですか？どのようなものですか？

低学年のお子様を使用する器具ですから、簡単で誰にでも使いやすいものでなくてはなりません。経験豊かな矯正歯科の先生に相談すれば、年齢や症状に合わせ選んでくれますので心配ありません。

さて、この早期治療に使われる器具は数多くあります。大きく分けると2種類あり、①口の中だけにつける器具と、②顔や頭につける器具です。それぞれ自分で取りはずせるものと、そうでないものがあります。詳しくは矯正歯科の専門開業医にご相談ください。

#### 早期治療に使う矯正器具の一例



自分でとりはずせる矯正器具。狭い歯列を横に広げるスクリューを調節する（口の中だけにつける器具）。



狭い歯列を広げていく器具。すぐに慣れるし、自分で簡単に取りはずしができるよ！

## 日本臨床矯正歯科医会東北大会のレポート

平成26年2月12、13日の両日、宮城・仙台国際センターにて、「社会とより深く関わる矯正歯科治療を目指して」というテーマで我々が所属している公益社団法人・

日本臨床矯正歯科医会の第41回東北大会が開催されました。本大会で、多くの学術展示・症例展示・症例報告がおこなわれた中、神奈川支部学術委員の先生方より「下顎第二大臼歯の萌出障害のパターンについて」と題したポスター発表がおこなわれました。

また本大会中、恒例のブレススマイルコンテストの表彰式もおこなわれました。ブレススマイルコンテストとは、矯正歯科治療中の方を対象とした笑顔のフォトコンテストで、日本臨床矯正歯科医会が主催しております。本会会員の診療所で矯正治療を受けている患者さまならどなたでも応募ができます。コンテストの表彰者には豪華副賞もありますので、皆様も奮ってご応募ください！



発行 日本臨床矯正歯科医会・神奈川支部 / 編集 広報担当 石川 剛 TEL 044-200-8374 / 加藤裕也 上木康文

< 医院ニュース >